

台湾の日本研究の現状と未来

徐興慶
(台湾大学)

2015. 7. 18

はじめに

1960年代に台湾の大学で正式な課程として日本語教育が実施されるようになってから、既に50年が過ぎた。現在、台湾全国に日本語文学科や応用日本語学科を持つ大学は約40校あり、その中のおよそ30%は修士課程（うち1校は博士課程、1「日本研究博士学位学程」）を有し、日本研究センターを設置している大学も2015現在に10校に及んだ。

本報告では、歴史の背景と変遷から、(一)台湾における日本研究の背景、(二)「平和友好交流計画」の発足と実施、(三)日本研究の支援事業、(四)、統計数値から見た台湾の日本研究、(五)台湾各大学の日本研究センターの始動、(六)台湾大学の日本研究—現在と未来—などについて検討し、将来の台湾日本研究の発展、人材育成および東アジア国際社会との連携のための提言を行う。

一、台湾における日本研究の背景

歴史の回顧と現状の分析

*第一期（1952～1972）

- ・政治、外交、経済などの政情分析
- ・明治維新、西洋文明の吸収、近代化と改革
- ・日本帝国主義の本質とその対外侵略への批判

*第二期（1973～1995）

- ・政治や経済の研究を中心
- ・少し日本学研究的の学術交流を推進し始めた
- ・系統性や組織性のある研究が乏しい

二、「平和友好交流計画」の発足と実施

*「平和友好交流計画」に関する村山内閣総理大臣の談話（1994.08.31）

- ・植民地支配に対する反省
- ・世界平和の創造に尽力

- ・過去の歴史を直視するため、歴史図書・資料の収集、研究者に対する支援等を行う歴史研究支援事業
- ・知的交流や青少年交流などを通じて各界各層における対話と相互理解を促進する交流事業

*1995年に日台交流センターを財団法人(現在は公益法人)交流協会東京本部、台北事務所内同時に設置

三、日本研究の支援事業

- ・「歴史研究者交流事業」
- ・「日台研究支援事業」
- ・「フェローシップ事業」などの活動変遷とその実態

四、統計数値から見た台湾の日本研究

- ・日本研究関連の博士、修士論文の推移
- ・分野別による雑誌、紀要、単行本等に収録した論文の分析

五、台湾各大学の日本研究センターの始動

- ・現状と問題点を分析する

六、台湾大学の日本研究—現在と未来—

*東アジア的観点から最新の研究動向を語る

- ・人文学と社会科学の対話・交流
- ・若手研究者の育成
- ・「日本研究学程」及び奨学金の実施
- ・「日本研究叢書」の出版

結語に代えて 東アジアの日本研究者は如何に連携できるのか

- ・学校、国の枠を超えた国際共同研究
- ・日本研究の人材育成をめぐる共同体の結集
- ・人材育成と就職の促進—現状を如何に改革するのか